

父親の愛着形成が子どもの成長発達に 及ぼす影響についての文献研究

船田 智元, 浅井 佳士

看護学部看護学科

【研究目的】

本稿の目的としては、父親の幼児期における子どもとのかかわりが子どもの成長および発達に対しどのような影響を与えているか検討する。

【研究方法】

J-stage を用いて「父子」「親子」「愛着形成」「育児」のキーワードに該当した文献 5 件を分析対象とした。

【結果】

1. 父親のかかわりが子どもに与える影響

父親の子どもとのかかわりには、「子どもと一緒に風呂に入る」や「子どもに本を読んであげる」などの時間をかけて子どもにゆっくりかかわろうとする静的交流、「子どもにたかいたかいをする」や「子どもをおんぶする」など子どもの身体運動機能の育ちに関連する動的交流の二つに大別された。

2. 父親と母親との関わりが子どもに与える影響

母子の関係は父子との関係より親密であり、母親の子どもとのかかわりが子どもの発達において重要な役割を担っている。父親の育児参加が得られない場合、母親の養育態度が攻撃的に変化し、子どもの発達において悪影響を及ぼす。

【考察】

①動的交流が多いと協調性が強く、遊びを通して社会性の獲得を促しており、動的交流から子どもとの関係を築いていく必要がある。

②父親の育児参加がなければ、母親の養育態度の変化をきたし、今後の子どもの成長において、問題行動を助長することへとつながる。